

市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2023年		15日	(記入者) 鶴田吉範	
取材参加者	荒井	石井	垣内	小西	島田
	鶴田	本井	横山		
取材対象先	天理市：田町区の木造毘沙門天立像				

所在地	天理市田町568、本郷毘沙門堂				
所有者(取材 対応者)名	田町区	連絡先 ***			
	*** 区長(個人情報守秘)	PCアドレス			
取材申込	申込先・行政名など：田町区 *** 区長				
市町村 指定文化財	彫刻	1 軀	木造毘沙門天立像 2017(平成29)年1月11日指定		
	建造物	棟			
文化財指定理由	大きな形状変更はなく保存良好。平安時代末から鎌倉時代初頭の作品として美術史的に貴重で、常蓮寺(廃寺)ゆかりの像として歴史的にも重要な位置を占める。				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	火災報知機及び防犯センサーが設置されていた。取材当日、中尾区長によりそれぞれの警報ベルが鳴るか作動チェックをしていただいた。消火器については、近くの公民館に設置し対応することだった。	特になし。
	被害の有無、対策など	記入者の感想
獣害対策	獣害などは特にないとのことだった。	特になし。
保存～継承 へ 苦労と 今後の課題 と対策	取材当日は年に1回の法要の日にあっており、毘沙門堂の横で地域の人々が数名集まっておられた。お話を聞く中で文化財を大事にしていこうとする気持ちがよく感じられた。また、当地にある常蓮寺(廃寺)の鎮守社であった巖島神社は、石上神宮のお旅所とされており、毎年10月15日のふるまつり(渡御祭)の起点となっている。お祭りと共に毘沙門堂の当該仏像も地域の人々に知ってもらえるように、引き続き保存・継承活動の実施をお願いしたい。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

防火、防犯設備も設置されており、現状は文化財の保護状況に大きな問題はないが、毘沙門堂は昭和58年9月に再建されてから約40年を経ており防犯や耐震などの懸念はある。

市町村指定文化財取材票〈裏〉

取材日	2023年	7月	15日	(記入者) 鶴田吉範	
取材参加者	荒井	石井	垣内	小西	島田
	鶴田	本井	横山		
取材対象先	天理市：田町区 の木造毘沙門天立像				

* 文化財写真は2018年天理市教育委員会発行「天理市文化財調査年報」より。

文化財指定名 木造毘沙門天立像

文化財 (正面写真)	文化財 (角度を変えて、写真)
木造毘沙門天立像を保管する毘沙門堂	火災報知機の設置写真
文化財の由緒などを記入	所有社寺や地域（廃寺等）の歴史や特徴を記入
<p>当該仏像は常蓮寺（廃寺）ゆかりの針葉樹材による寄木造りの仏像で、像高は108.2cmある。後世に玉眼を施すなど幾度かの修繕を受けているが、体部には彩色や截金が残る優品である。平安時代末期～鎌倉時代初頭の制作と推定されている。（発行：天理市教育委員会「天理市文化財・遺跡分布地図」より）</p>	<p>当該仏像は天理市田町区自治会の管理で、児童公園の北側にある昭和58年9月に建築された毘沙門堂に保管されている。当地は常蓮寺（廃寺）の跡地で、常蓮寺は草壁皇子が建立し、本尊は毘沙門天で金堂に十一面観音像を祀り、不動堂・九重石塔があったと伝えられている。現在は棟札に「常蓮寺鎮守一言神」と記される巖島神社（明治初頭に現神社名に改められた）が児童公園の南側に鎮座しているのみである。</p>